

平成29年度 第2回 海老名市社会教育委員会会議内容

日時：平成29年11月10日（金）

10:00～12:00

場所：海老名市役所7階 704会議室

【出席者】

委員	植松慶子、梅田眞司、栗山明郎、櫻井篤、三部雅世、塩地ひとみ、多久島勲、前野佳三、森田壽、山田信江
事務局	伊藤教育長、岡田部長、金指次長、小林課長、仲戸川主幹、西海主幹、古賀主査、谷田主事

【議事】

(1) 海老名市立図書館について

事務局より海老名市立図書館の運営状況について説明

～質疑応答～

委員：宅配サービスの利用者数はどれほどか。利用方法について伺いたい。

委員：他市の図書館を利用することがあるが、公民館等にも本を届けてくれる。コミセン等で受け取れるというようなことも考えてほしい。

事務局：月に20～30件。宅配は往復で利用できる他、借りる時だけ、返す時だけというように片道の利用も可能。利用しやすいよう検討していきたい。

委員：指定管理料について、リニューアル後は開館時間延長により人件費の問題等で増加するのではないか。

事務局：年間325,515千円の指定管理料のうち、178,500千円が人件費で55%を占めている。その他は図書館の施設維持管理費やシステム管理費、学校図書館の費用という状況である。指定管理前とは大きくサービス内容が変わっているため、直前の予算は比較対象にならない。自主事業は量・質の点からとても優れた内容で行われており、利用者は約1.7倍に増えている。数値では現れないが市民サービスはとても向上したと考えている。

委員：カフェや書店の売り上げの一部をもらうことはしていないのか。

事務局：していない。

委員：えびーにゃハウスに比べ、中央図書館のカフェ使用料は安いのか。

事務局：図書館は目的外使用であり、民間の契約であるえびーにゃハウスとは根本的に異なる。図書館のカフェは、市のほかの目的外使用と異なり、CCCが設備の初期投資を行っている。また、これまで図書館周辺では、

文化会館内の食堂や蕎麦屋も撤退している。目的外使用料は条例に基づき算出するが、そのような状況から、半額減免をしている。相場でとの意見もあるが、庁舎の食堂などもそうだが、それでは商売として成り立たない状況がある。

委員：今回、中央図書館のサービスについて効果測定のための資料はあるか。次の指定管理者制度を継続する際、CCCとTRCはどのような形になるか。

事務局：直営のことについては資料がないため、比較はできない。指定管理になり、利用者の把握ができるようになった。費用対効果は数値化できない部分が多いため難しい。

委員：指定管理継続の場合、入札するのか。

事務局：公募とする。

委員：指定管理者が変わった場合、書店とスタバはどうなるのか。

事務局：次の業者による。図書館でない部分は、指定管理者によるものなので、公募していない。ただし、市民の要望によりカフェを導入しているため、公募にあたって条件をだす。

委員：読書週間にあたってのマスコミの世論調査によると、1か月間に1冊も本を読まない年齢は、10代の終わりから20代が一番多いそうである。しかし、1冊も読んでいない世代が、図書館に通う回数が一番多いそうである。全国的にいまや図書館は勉強をする場所になっている。中央図書館についても入学試験前になると行列ができるが、対応はどう考えているか。

事務局：並ばれている方からは「居心地がいいからここで勉強したい」という意見をいただく。座席数を増やすだけでなく、時間制の導入等で対応している。

委員：開館の時間が延びると利用者が増えることと帰宅時間が遅くなるため、犯罪等問題が発生するのではないか。図書館で問題が起きないように見守ってほしい。

委員：学校図書支援拠点の設置ということで、どれだけ学校が助かっているかを話したい。図書支援員が作成している読書通帳は25冊読み貯めると次がもらえる。小学校から中学校まで使い続けることができるため、子どもたちはとても大事にしている。また、読書便りを出して様々な本を紹介し、季節ごとに話題を提供して、子どもたちが図書室に行こうと思えるようにしてくれている。本は生涯学習の第一歩だと思っている。その第一歩を支援員が丁寧にサポートしている。他にも、読み聞かせボランティアと連携したり、図書委員の児童とも一緒に活動してくれる。指定管理になり支援員が学校に派遣されて、大変子どもたちのためになっている。市民へのサービスの向上だけでなく、目に見えないかもしれ

ないが、学校教育ではとても有難い。

委員：指定管理導入後、学校図書室がきれいになった。子供たちにとって使いやすい。

(2) 「まなBINA」について

事務局より「まなBINA」の講座内容および実施状況について説明

委員：話を聞き、自分も参加したいと思った。ウェブ等で過去の講座一覧を掲載することで、翌年HPを参考に見た人が関心をもち、参加者がよりいっそう増えるのではないか。

事務局：検討する。

委員：海老名メールで知り「大谷歌舞伎」の講座に参加した。とても興味深い内容だった。市の広報にも載っていたが、メールも多くの人目に留まるので、広報の良い手段だと思う。

事務局：市の広報に毎掲載している。広報を見ている方からの応募が多い。

委員：中学生向けの講座も社会教育として、多く取り入れてもらいたい。参加人数が少なくても、今年度実施したような内容をやっていてもらいたい。今後、若いお母さん向け、高校生向け等も是非検討してほしい。あらゆるジャンル、あらゆる年代ということで大変だと思うがお願いしたい。

委員：この若者支援室の市民講座は、教育委員会の事業であり、高齢者対象というわけではないと思うが、平日だと高齢者しかこられない。土日に開催したほうが若い方も参加できる。

事務局：毎回アンケート調査をしています。その中で要望が多いのが平日の午前中である。小・中学生向けは夏休みか土日に開催と考えた。あえて午前中に開催しているわけではない。

委員：講師の謝礼は、どう決めているのか。

事務局：海老名市の規定に従って決めている。

委員：講座一覧にあった城島先生は、大谷小学校に絵画教室に来ていただいたりもしている。大谷歌舞伎についてもお話しされており、みんなで学べる海老名史として生涯学習の一環として素敵だと感じる。

委員：軌道に乗ってきたと思うと所管課がかわったりして、一貫性がないので改善していただきたい。

事務局：高齢の方がとても熱心。勉強したい、今年は何だろうと思っている方々が大勢いる。そういう人たちに応えたい。様々な年代の方が学べる、楽しめるものができるように今後も実施していく。

(3) その他

委員：最近、インクルーシブ教育という言葉を目にする機会がある。海老名市でもまな BINA など、社会教育として共生教育やインクルーシブ教育について取り上げてもらえたらと思う。

事務局：学校でインクルーシブ教育を進めるには、社会の多くの方々の認識の上に立たないと進めていけない。学校だけではなく社会も同じように進んでいかなくてはならない。

事務局：まな BINA で扱う講座内容の希望は多岐にわたっている。いろいろな方の意見を聞きながら進めているので、今後の参考にしたい。

◇終了